

あいめーる

WINTER

地域福祉部特集 愛隣館通信

平成 23 年 12 月 1 日発行 〒861-0551

発行 熊本市山鹿市津留 2022

社会福祉法人 愛隣園 TEL (0968)-43-2771

障害者支援施設 愛隣館 FAX (0968)-43-2793

発行責任者 三浦貴子 <http://aileans.com>

編集 広報チーム E-mail

キャリアビジョン ailins@ku.magma.ne.jp



(写真上・壇上は 20 年以上継続利用者 6 名と 15 年以上継続利用者 16 名の表彰式 / 山鹿市ニューグランドホテル於)

目次

| | |
|--------------------|-----|
| 表紙・地域福祉部二十周年記念祝賀会 | 1 |
| 地域福祉部の歩み | 2 |
| 生活介護事業所愛隣倶楽部 | 2 |
| 生活介護事業所デイケア | 2 |
| 多機能型ケアハウスびあハウス | 3 |
| ホームヘルプ部 | 3 |
| 地域活動支援センターびあびあ | 3 |
| 相談支援事業所 | 3 |
| あいめーる広場(愛隣館行事等) | 4・5 |
| 台湾旅行記 | 6 |
| 全国障害者スポーツ大会 | 6 |
| 家族の声 | 7 |
| 自治会役員紹介 | 7 |
| 月見の宴・入選作紹介 | 8 |
| 就労移行支援事業所(びあワーク)開設 | 7 |
| 三号館居室増床 | 8 |
| 朗読ボランティア訪問 | 8 |

地域福祉部二十周年記念祝賀会

十一月四日(金)山鹿ニューグランドホテルにおいて、障害者支援施設 愛隣館地域福祉部二十周年記念祝賀会が挙行されました。

当日は、現在デイケア部、愛隣倶楽部、びあハウス、びあぴあ、の各施設を利用している利用者およびその家族の方々、また、ボランティアの方々、更に、来賓として、山鹿市市民福祉部次長兼いきがい推進課課長の有働博様、社会福祉法人愛隣園理事長の三浦一水様、地域福祉部の開設や運営などにご尽力いただいたの方々をお迎えし、総勢九十四名(職員を含む)の方々一堂に集い、ともに開設二十周年を祝いました。

式では、加来信二様(元愛隣館副館長)をはじめとする多くの来賓の方々が次々に登壇し、お祝いの言葉を述べられたほか、永年通所者やボランティアの方々への感謝状授与などが行われました。



施設長

三浦 貴子

福祉施設や福祉サービス事業のすべてが地域福祉向上のために存在すると、私は思います。そして愛隣館は創設の時から、どうしたら地域の役に立てるか、入居者の方々も地域の一員として暮らせるかを念頭に置いて、必要なサービスを起こし、スタッフと力を合わせて歩んでまいりました。

地域生活支援・在宅サービス事業の始まりは、昭和六十三年からのショートステイと、平成三年開始の山鹿市愛隣館デイサービス。施設併設型デイとしては九州初の取り組みとなりました。当時山鹿市とのタイアップにより、全市の民生委員さんに、担当地域内居住の障害者の方々へのニーズ調査をご協力頂き、その結果を基に、サービスプログラムを組み立て、サービス提供体制を敷きました。

その後、平成九年通所療護B型事業開始、平成十一年全国初の通所療護A型事業所を立ち上げました。平成十五年ホームヘルプ事業、平成十六年まちなかにて障害者交流サロン「ぴあぴあ」をスタート。

平成十八年の自立支援法施行とともに、相談支援・移動支援・日中一時支援事業を開始していま

す。平成十九年多機能型ケアホーム「ぴあハウス」(ケアホーム+福祉ホーム+二十四時間ホームヘルプ)を創設。平成二十三年アパートを借り上げてケアホーム(三名)事業開始、十月から多機能型で六名の就労移行支援事業を行なっています。

すべての事業に共通しているのは、一人のニーズに應える形でサービスを始めたことです。動機が利用者ニーズだったので、これまでの複雑多様な制度変化にも揺らぐず来れたのですが、むしろ、時代と環境が利用者ニーズに添うものへと変わりつつあると感じ、意を強くしています。

また、地域福祉サービスを実施しながら地域住民の皆様の反応を直接受けることで、スタッフも事業所も育てて頂いているという実感があります。これからも地域に根ざして、誰かのお役にみんなで立ちたいと願います。

生活介護事業所 愛隣倶楽部



サービス管理責任者

辻 啓司

愛隣倶楽部は、平成十一年四月に重度障がい者の在宅生活を支援するための施設としてスタートしました。

現在は二十三名の登録者で、月曜から金曜までご利用頂いています。

利用の半数近い方が、言語でのコミュニケーションが難しく、瞬きや身体の一部を手段として意思表示をされます。そのため、常に寄添って声掛けを行い、小さなサインも見落とさない様に、丁寧なケアに努めています。

今後、倶楽部としては、利用者の地域社会での自立生活を視野に入れ、周りの人の援助を受けながらも、「自分のことは自分で決める」といった、自分らしい自立「自律」を支えていけたらと考えています。

愛隣館生活介護事業所 デイケア



サービス管理責任者

前田 明

デイケアは、平成三年に九州で初めての施設併設型デイサービスとして開設し、本年二十周年を迎えることができました。

十一月四日には記念式典を開催し、盛大なうちに無事に終了致しました。ありがとうございます。

デイケアにおける日中活動では、外部講師を招いて陶芸、パソコン、手芸教室の充実を図っています。十一月二十九日(火)と十二月四日(日)開催される熊本県障害者芸術展へ作品を出展予定されている皆さんは、作品の最終仕上げに入っています。

るデイケアを共に作り上げていく事が出来ますようにと思っております。

ホームヘルプ部



サービス提供責任者

迎田 孝子

平成十五年四月にホームヘルプ部が開設、現在三十六名の方が登録され、ご利用頂いております。

地域の中で、又、ご自宅でご介護を必要とされる方が自分らしく、自立した生活を送って頂ける様に様々なお手伝い、支援をしています。利用者の喜んで下さる笑顔と、感謝の言葉に、私達もやりがいと充実感、元気をもらい感謝しています。

平成二十四年四月より、移動支援事業が同行援護に変わります。サービスの革新をわかり易く利用者の方に伝え、快適にご利用頂ける様にしたいと思えます。

ニーズに沿ったサービスの提供と、自立心や生活意欲を高める事を心がけていきたいと思えます。

多機能型ケアホーム ぴあハウス



管理人

松永 清孝

障がい者の住まいの場には、様々な暮らし方の選択肢とそれぞれに必要な支援・サービスの具体的なコーディネートが必要です。

ぴあハウスは、ケアホームと福祉ホームを用いた住まいの場の提供と、世話人・居宅介護事業によるケアの提供、及び多様な日中活動を活用しながら支援しています。

日々の生活では、自己の可能性を上げ、自分に自信を持つ事、仲間同士助け合うことの大切さを実感されているのを感じます。地域とのかかわりを大切にして、生活リズムを創る楽しさを感じながら、自由と責任を伴う社会生活を築くことができるように応援しています。

ありのままに自分らしく生きる為に共に歩んでいきたいと思えます。

地域活動支援センター ぴあぴあ



生活支援員

松見 尚寛

これまでびあぴあにおいて、作業などに参加されていた利用者の希望もあり、十月より就労移行支援事業所「ぴあワーク」が新設されました。

就労移行支援とは、主に一般就労・就労継続支援A型等へ就職を希望する利用者の方を対象に、就労するために必要な知識・能力の向上、実習、職場探し等を通じ、適正に合った職場への就労へ

つなげる事業です。

おおむね二年程度のプログラムをもとに、職業訓練的な支援を行います。

また、ぴあぴあでも生産活動・絵手紙・手芸などの、色々なプログラムを実施していく予定です。

「こんなことをしたい」等、皆様方の色々なご意見を募集しています。「最近、ぴあぴあに行っていないな」という方も是非いらしてください。

相談支援事業所



相談支援専門員

伊藤 裕之

相談支援事業は山鹿市にお住まいの障がいがある方々が、地域で生活していく為に必要なことを一緒に考え、制度やサービスの利用などのお手伝いをする事業です。悩みや困りごとは是非、お気軽にご相談ください。

さて、次年度から障害者自立支援法の見直しが予定されており、相談支援事業の改正が目玉となっています。具体的には、個別のサービス等利用計画の作成の大幅な対象拡大、施設・病院等からの地域生活移行及び地域定着支援の個別給付化などが盛り込まれています。

現実に後追いしながら□□□□と変わる法律や制度ですが、障がい当事者の方々に不利益無く、誰もが喜ばしい法制度を望んでやみません。

法人愛隣園 夏祭り

八月二十七日(土)に、毎年恒例の夏祭りが、愛隣の家で盛大に開催されました。
今年で、夏祭りも十八回目を迎え、色々な出店が会場を飾り、各施設の出し物で、多めに賑いました。
祭りの開始早々に、夕立で一時中断しましたが、皆さんの想いが通じたのか十分程度で止み、打ち水効果で会場が涼しくなり、気持ち良く再開することができました。
その後は中断することもなく賑わいを戻し、愛隣館の出し物では、人気グループ湘南の風をコピーしたライブパフォーマンスや、若手職員による灯笼踊りでは、より一層会場を艶やかな雰囲気に取り込んでいました。
時間いっぱいまで会場に詰め掛けた入居者・利用者とその家族の皆さんは、楽しいひとときを過ごしていました。



第三十三回山鹿・植木合唱祭

ケア課
松尾 麻希



九月二十三日(金)秋分の日、熊本市植木文化センターで行われた山鹿・植木合唱祭に利用者二十一人・職員十二人の計三十二人で参加しました。
曲目は『あなたがたどこぞ』『切手のない贈り物』『見上げてごらん夜の星を』の三曲でした。
手遊びや手話を交えた曲目になっており、覚える事がいつもより少しだけ多く音楽クラブの時間はもちろん日頃から手遊び・手話を利用者・職員共に一生懸命練習しました。本番直前皆さんとても緊張した様子でしたが、本番が始まるとそれまでの緊張していた表情が一転、とても楽しいステージとなりました。



最後になりましたがご協力頂いた音楽サークル山鹿・コールエイトの皆さま心より感謝申し上げます。

月見の宴

九月十六日(金)愛隣館食堂に来賓の方々をお迎えし、仲秋の名月からひと足おくれて月見の宴が開催されました。

愛隣館、地域福祉部の入居者、利用者、職員の方々が多数参加。和やかな雰囲気の中、事前に応募のあった月の部・雑詠の部の俳句と短歌(総数七百首)が紹介されました。世相がら、震災への想いを詠んだ句や歌も多くありました。



(入選句・歌は、七頁に掲載しています。)

お月見コンサートでは、フルート(梶本ひろ子氏)大正琴(上野敬氏)ピアノ(今津承喜氏)にて『荒城の月』や『涙そうそう』等の名曲を演奏。美しい音色に、日頃の喧噪を忘れるひとときでした。最後に、理事長賞・館長賞・部門別の入選句・歌の発表・表彰があり、どれも心に沁みる力作ばかりでした。

あいめーる 広場

第七回山鹿市ふれあいピック大会

ケア課
田代 実



十月一日(土)、山鹿市カルチャースポーツセンターで、第七回ふれあいピック大会が行われました。

今年の愛隣館は、去年に比べ参加された利用者の方が若干少なかったのですが、今年参加を頂いた御家族の方の支えもあり、皆様の沢山の笑顔を見ることが出来てとても嬉しく感じました。

また、今年から輪投げの競技が無くなり、新たに玉入れと言う競技に変わりました。

玉入れは、希望者全員参加の競技で興味を持たれた利用者、御家族と参加された方が一体となり、他のグループの方々と楽しく交流されていて、まさにこれが「ふれあいピック大会」なのだと思いました。



マインドハーモニーコンサート

ケア課
中野 美香



十一月三日(木)熊本県立劇場コンサートホールにて入居者十五名・職員十五名・コールエイト八名・音楽サークル山鹿十名の計四十八名で参加しました。

毎週水曜日の午後に一時間、ボランティアの皆さんのお手伝いを頂きながら短い時間の中で、手話を取り入れた練習をしていきました。

今年で四年連続の出演となり、入居者の方もとても喜ばれておりました。

最後になりましたが、ご協力いただいた関係者の皆様に深くお礼を申し上げます。



★ 台湾旅行記



入居者

丸目 芙美枝

九月六日～九月十三日まで、友達の池田祐美さんと台湾旅行にいきました。海外旅行は初めてで、不安と楽しみで半分半分でした。



私の一番いきたかった所は、宝覺寺の布袋像と九族文化村です。布袋像は触るとご利益があると言われていきます。耳に触ると健康になり、腹を触ると金運があるとされています。布袋像には大小二体あり、小さい布袋像

最終日、展望台から見た景色、淡水湖の夕日を見てとても美しく感動しました。最初の不安も吹き飛んで思い出に残る楽しい旅行でした。



入居者

池田 祐美

台湾旅行に行くきっかけになったのは、友達の丸目さんとの話から、「どこか旅行に行きたいね」と言う気持ちから、愛隣館の職員さんに相談したところ、何度も打ち合わせをして、夢が現実のものとなりました。

一番の目的は、台湾のアイドルグループ飛輪海（フェルンハイ）に会いに行くことでした。実際に会うことは出来ませんでした。事務所まで行き、念願のファンレターを渡すことも出来ました。買い物も、アロンとジローのグッズやCDを沢山買って、アロンのポスターをもらいました。これまで何度か海外旅行に行きましたが、今回の台湾旅行は二人で企画をして行った、思い出深い旅行になりました。

● 全国障害者スポーツ大会



理学療法士

津田 彩

十月二十二日～二十四日に開催された、東日本大震災復興支援第十一回全国障害者スポーツ大会「おいでませー山口大会」に、永野文香さんと参加してきました。

「君の一生懸命に会いたい」のスローガンの下、総勢三千二百三十八人の選手が十三種類の競技で技を競い合い、永野文香さんは砲丸投げとソフト

ボール投げに出場しました。

そして見事、砲丸投げ二位とソフトボール投げ一位という成績を収められました。

大会期間中は緊張した様子でしたが、他の選手やボランティアの方とも親しくなり、とても楽しそうでした。大会に参加し、選手たちが最後まであきらめずにプレーする姿に感動しました。



★ 家族の声



利用者家族

村田 栄二

娘麻美が愛隣館に入所間もなく、職員の方のお世話により、成人の仲間入りした時、振袖を着て写真撮影を行った事、娘の心に喜びとして深く心に刻み込まれていると思います。

あれから八年が経ちました。昨年の夏ぐらいから食べる事が出来なくなり、体重が減り、その対

応策として、夏に胃ろうの手術を受けました。

その時は、心配しました。でも『今』を考えますと、体重も増え、顔色も良く、笑顔もあり、この笑顔こそが私の生活の礎です。

最近、娘と一緒に散歩に出かける時があります。全身に太陽の光を浴び、風を受けるこの場所に居る事に幸せを感じます。『今』『こころ』を一生懸命に生きて行きたいと思えます。



入居者自治会



自治会 会長

河津 政男

愛隣館に入居して八年目になる、河津政男です。去年は一年間の副会長の役目を終え、今年の四月から、前役員の方に推薦を受け、会長を任せられました。

自治会での役目として、四月の花見会で、乾杯の音頭を任せられました。その他にも、施設見学の際にも入居者代表として挨拶をしました。年末のクリスマス会では、自治会より年末ジャンボ宝くじを一枚ずつ封筒に入れ、私と会計の二人で愛隣館職員に配ります。

最後に、入居者の代表として、皆さんが愛隣館でより良い生活を過ごせるように、残りの期間、頑張っていきたいと思えます。



自治会 会計

久留 信子

愛隣館に入居して、早いもので二十年目になる久留信子です。

自治会役員は、入居者の皆さんの推薦によって選ばれます。今年になって初めて自治会の役員に選ばれました。何分、初めてのことで右も左も解らない事だらけですが、前役員をされた方に、アドバイスを頂きながら役職を努めています。

長期入院をされた方や、身障者スポーツの全国大会に出場される方などへ、自治会を代表してお見舞いや、お祝い金を準備してお渡ししています。残り少ない期間ですが、入所されている方達の声を、少しでも届けられるように、頑張っていきたいと思えます。



月見の宴 入選作紹介



●三浦一水理事長賞

●短歌(山口博美)

震災の 爪跡残る 故郷で

人は生き抜く 絆深めて

●三浦貴子館長賞

●短歌(小川ハツ子)

災害が見えない私も 良くわかる

現地で泣いている 声そこに

●俳句(田中鉄也)

我思う 金魚いすぎて せまくなる

●入選作

●短歌(月の部)

一席 満月の 部屋に差し込む 明るさに

ふと目が覚めて しばしまどろむ

二席 真夜中に 窓辺を向くと 月明かり

あい子姉さん 今度いつ来る

三席 被災地を 照らしてください

お月さま 希望の光 あかあかかと

(一席・木下寿浩／二席・金柿節子／三席・山口さとみ)

●短歌(雑詠の部)

一席 裏庭に ひっそり白き 彼岸花

やさしく揺れて 母の声届く

二席 僕の手は 心伝える 言葉だよ

わかってほしい ホントの気持

三席 長い髪 バツサリ 切って大変身

それでも私は 原祥子

(一席・吉田裕子／二席・田中裕一／三席・原祥子)

●俳句(月の部)

一席 生かされて 定めに負けず 丸い月

二席 周りに道 影ふみ遊び お月様

三席 雨上がり 雲のすき間に お月様

(一席・池田良子／二席・月ウサギ／三席・山品聡美)

●俳句(雑詠の部)

一席 馬追いに はしゃいだ我が子 東京へ

二席 風鈴の 音聞きながら メールする

三席 秋風や 座蒲団二つ 折り畳み

(一席・高野まゆみ／二席・小崎あゆみ／三席・岩下力)

就労移行支援事業所開設



就労支援員

志方 大和

この度、生活介護事業所「愛隣倶楽部」と統合し、多機能型事業所「愛隣倶楽部」として、十月一日より生活介護事業と就労移行支援事業を実施しています。

就労移行支援事業の呼称は「ぴあワーク」に決まり、仲間同士で仕事をしていくための術を磨き合うことや、気持を高め合うことを第一に、ご利用者のニーズ沿った的確な支援を展開していきたいと考えます。

「仕事」が人にもたらす影響は計り知れないものがあり、そんな重要な部分のお手伝いが出ることは、とても光栄なことと感じています。一人でも多くのご利用者を就労へ結びつけられるように努力・精進していきたいと思えます。

三号館居室増床

三号館の旧リネン室を改築し、ハイム5・ハイム6号室の二床を増床。十月一日より運用が始まりました。

短期入所事業所では、空床利用型施設として、シヨートを利用される方のために居室提供に努めて参りましたが、常時、満室状態であったことから、より多くの利用者の方の要望に応えるべく、



新たに二床の居室を設けました。

愛隣館の短期入所事業は、在宅障害者の地域生活支援を目的とし、介護者の不在時やレスパイトケア等、在宅障害者の皆様に一時的に施設を利用して頂くことができます。

朗読ボランティア訪問

十月十五日、山鹿市在住の有志の皆さんによって、平成二十年に結成された朗読ボランティア『猪々会』の訪問を受けました。

『猪々会』は三年前、朗読講座を受講されたのを切っ掛けに、社会のために役立ちたいという想いから会員七名で立ち上げられました。

代表の川添傑(すぐる)氏によると、特別介護老人ホームニケ所・介護老人保健施設・小学校、愛隣館の計五ヶ所を月一回のペースで訪問し、ボランティア活動を行っているとのこと。

今回の朗読プロ



グラムでは、『ナマコ』のいよいよ『愛してくれてありがとう』の二話が披露されました。

また、童謡四曲の合唱が食堂で行われ、利用者、職員一同楽しい時間を過ごさせていただきました。

編集後記

冬号は地域福祉部特集となりました。

愛隣館では、新しく開設された就労支援事業所「ぴあワーク」と、今回掲載できなかった在宅障害者の方が一時的に施設を利用できる、短期入所事業・日中一時支援事業を合わせ、全部で八つの事業所を運営し、地域福祉事業を行っています。

あいめーるは愛隣館に携わるすべての人々が作る季刊誌です。今回も施設長を始め、職員の方々、利用者、ご家族の方々のご協力を頂きました。誠に有難うございました。心よりお礼申し上げます。今年もあと少しです。また来年も、われら広報部へのご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いたします。皆さま、良いお年をお迎え下さい。

冬の行事予定

十二月 地域福祉部望(念)年会

クリスマス集い

自衛隊清掃ボランティア

餅つき

初詣

入居者自治会新年会

節分行事(豆まき)

バレンタイン家族懇談会予定